

## 遠隔ライティング

### 遠隔ライティングとは

遠隔ライティング機能とは、他の PC に接続されているドライブを利用してディスクの読み書きを行う機能です。

会社組織等で書き込み用ドライブの付いた PC を複数人で共有したり、ドライブの付いていないサブノート PC で書き込みを行うことが出来ます。

説明にあたり、上図の様な構成で遠隔ライティング機能を利用することを考えます。

ServerPC が書き込みドライブを搭載し実際に書き込みを行う PC で、ClientPC がライティングソフト（ディスクメディアエーター呉葉）を動かす PC です。

### セットアップ方法

#### パーソナルファイアウォールの設定を変更する

遠隔ライティング機能を利用するには、ServerPC のパーソナルファイアウォールの設定を変更し、TCP/UDP8801 番ポートを開放する必要があります。

ServerPC にセキュリティ対策ソフト等がセットアップされ、そのファイアウォール機能を利用している場合は、各ソフトウェアのマニュアルを参照して設定を行って下さい。なお、WindowsXP SP2 以降の OS には標準でファイアウォール機能が搭載されています。以下に WindowsVista の例を挙げて、設定の変更方法を解説します。

1. コントロールパネルを起動し、[ ネットワークとインターネット ] リンクを選択します。
2. [ Windows ファイアウォール ] リンクを選択します。
3. [ 設定の変更 ] リンクを選択します。
4. [ 例外 ] タブを選択します。
5. 「コア ネットワーク」, 「ネットワーク探索」, 「ファイルとプリンタの共有」にチェックが入っていることを確認します。チェックが入っていない場合はチェックを入れます。次に、[ ポートの追加 ] ボタンを押下します。
6. 名前に「Remote SPTI Daemon (TCP)」, ポート番号に「8801」と入力し、プロトコルに「TCP」を選択、[ OK ] ボタンを押下します。
7. 再度、[ ポートの追加 ] ボタンを押下します。
8. 名前に「Remote SPTI Daemon (UDP)」, ポート番号に「8801」と入力し、プロトコルに「UDP」を選択、[ OK ] ボタンを押下します。
9. 「Remote SPTI Daemon (TCP)」, 「Remote SPTI Daemon (UDP)」にチェックが入っていることを確認します。チェックが入っていない場合はチェックを入れます。次に、[ OK ] ボタンを押下し、設定画面を閉じます。

以上でパーソナルファイアウォールの設定は終わりです。

#### 遠隔 SPTI デーモンのセットアップ

次に、遠隔書き込み機能を提供する遠隔 SPTI デーモンを、ServerPC にセットアップします。

1. Windows 用アプリケーションのページより遠隔 SPTI デーモンをダウンロードし、セットアッププログラムを起動します。



2. インストール先を入力（通常はそのまま構いません）し、[次へ] ボタンを押下します。



3. 共有書き込み用ドライブとして使う CD/DVD ドライブ名にチェックを入れ、[次へ] ボタンを押下します。ちなみに、ドライブの交換や設定の変更により、ドライブ名が変更となった場合には、遠隔 SPTI デーモンを再セットアップし、設定を変更する必要があります。



4. [インストール] を押下します。



5. セットアップが完了したら、[終了] を押下します。



以上で遠隔 SPTI デーモンのセットアップは終わりです。

## 使い方

### 基本的な使い方

ClientPC にてライティングソフトを起動し、ドライブ選択ダイアログ上で読み込み装置、若しくは書き込み装置選択プルダウンの右にあるネットワークボタンを押下します。

ServerPC が同一ネットワーク内にある場合、図のように ServerPC に存在するドライブが検索され、選択可能となります。

「現在利用可能な遠隔ドライブは存在しません」と表示される場合

まずは再度ボタンを押下し、再現性を確認してください。

他の ClientPC または ServerPC にて共有ドライブを利用している場合、そのドライブは使用できません。利用が終わるまでお待ち下さい。特に ServerPC の OS が Windows Vista である場合は、ドライブにメディアを挿入していると OS のライティング機能によってドライブが占有されることがありますので、ご注意下さい。

他で利用されていないにも関わらずメッセージが表示される場合、ClientPC のライティングソフトの通信設定画面を開き、設定を変更する必要があります。

### タイミングが合わない場合

単にタイミングが合っていない場合は、サーバ確認時間を増やすことで認識可能となる可能性があります。デフォルトでは 300ms が設定されているため、この値を 500 ~ 1000ms 程度に変更します。

#### ServerPC が同じネットワークに存在しない場合

ServerPC が同一ネットワーク上に存在しない場合、他のネットワークに属する一斉同報通信アドレスに ServerPC が存在するネットワークの一斉同報通信アドレスを追加します。一斉同報通信アドレスは該当ネットワークのホストアドレス部のビットを全て 1 にしたもので、図のサーバの属するネットワーク 192.168.0.0/24 の場合は 192.168.0.255 となります。

#### ルータがブロードキャストパケットをフィルタリングしている場合

上の「ServerPC が同じネットワークに存在しない場合」にて正しく設定を行っても通信が行えない場合、ルータがブロードキャストパケットをフィルタリングしている可能性があります。その場合は、ServerPC の IP アドレスを直接追加します。